

2023年度

# 愛知の社会科教育

(第55集)

## も く じ

I	教育研究愛知県集会	1
1	小学校分科会	
2	中学校分科会	
II	本年度の研究内容	3
1	小学校第3学年における実践例	
2	中学校第1学年地理的分野における実践例	

愛知教職員組合連合会 教育課程研究委員会社会科部会  
2023年度 教育課程研究委員

◎部長 ○副部長

## ブロック推薦

名古屋			尾 張			三 河		
氏 名	単 組	分会	氏 名	単 組	分会	氏 名	単 組	分会
◎西脇 佑	名古屋	神丘中	○浮田 勇次	小牧	小牧小	清水 裕司	幸田	荻谷小
児玉 良太	名古屋	昭和橋小	伊藤 宏将	海部	弥富北中	荻野 達成	豊橋	石巻中

## 第69～72次教育研究全国集会レポート提出者

69次			71次			72次		
氏 名	単 組	分会	氏 名	単 組	分会	氏 名	単 組	分会
○古居 成幸	西尾	八ツ面小	中西 悠	岡崎	豊富小	湊 悠希	名古屋	大須小
酒井 孝康	岡崎	城南小	野口 哲平	名古屋	志段味中	河本晋也	春日井	西部中

## 第73次教育研究全国大会レポート提出者

加藤 優太 (名古屋・沢上中)

中森 正純 (豊川・小坂井西小)

## I 教育研究愛知県集会

### 1 小学校分科会

#### (1) 全体の感想

地域教材を活用した実践や対話的な活動を通して、互いの考えを交流する実践、思考ツールやICT機器を有効に活用しながら課題を追究する実践が報告された。各分野別の討論では、それぞれの実践に基づいて、活発に意見が出され、これからの社会のあり方を考える子どもを育てるために、熱心な議論が行われた。総括討論では、「現在求められている社会科学習における教員の役割とは何か」について、参加者によって活発な質疑と柱に沿った議論が行われた。

#### (2) 討論の内容

##### ① 地域学習

自分たちが住む町の変遷やそこに暮らす人々の願いについて知ることで、追究する意欲を高め、主体的に取り組ませる実践や、課題解決にむけて思考ツールやワークシートを活用して自分たちにできることを考える実践などが報告された。討論では、「身近な事象を教材化した学習活動の工夫と育てたい力」について話し合われた。助言者からは、地域教材を活用することで、子どもたちは学習課題を自分事としてとらえ直したり、学びを深めたりすることができるとの助言を得た。

##### ② 歴史・公民学習

切実感のある課題設定やシンキングツールを活用し、思考を可視化することで歴史的な事象を身近なものとしてとらえさせる実践や、地域社会のあり方について資料やゲストティーチャーを活用したり、調査活動や対話的な学習を通したりして、よりよい社会づくりへの考えを深める実践が報告された。討論では、「先人のはたらきや政治の役割を、切実感をもって追究できる学習活動の工夫と育てたい力」について話し合われた。そして、子どもたちが主体的に学習できるようにすることが、確かな社会認識を育むために重要であると確認された。助言者からは、よりよい社会をつくろうとする人々やその思いと出会いながら学習活動を行うことが重要であるとの助言を得た。

##### ③ 国土・産業学習

地域的な特徴を的確にとらえ、子どもたちの思いや願いに沿って主体的に課題を追究する実践や、子どもたちが調べたことをもとに多角的に考え、表現したり、ICT機器や思考ツールを活用したりして考えを深めたりする実践などが報告された。討論では、「よりよい社会の実現をめざし、主体的に考えるための学習活動の工夫」について話し合われた。助言者からは、課題や教材の出合わせ方を工夫し、子どもの主体的な姿を具体的にとらえ、授業をする必要があるとの助言を得た。

#### (3) 今後に残された課題

- 子どもたちが切実感をもって主体的に追究するための教材や学習活動の工夫
- よりよい社会の実現をめざす子どもを育てるための社会科学習のあり方

## 2 中学校分科会

### (1) 全体の感想

昨今の世界情勢や身近な地域の課題や多様化する価値観の中、自分たちが主体的に物事を考え、社会へどのようにかかわるか、社会科教育が果たすべき重要度が増してきている。そのため、今年度はテーマを四本柱とし、地理・歴史・公民それぞれの観点から授業デザインを行った実践が報告された。県内18本のレポート報告をもとに、子どもたちにとってより良い学びをめざし、学習活動のあり方や教材開発の工夫、教員としての心構えなどについて積極的な質疑や討論が行われた。

### (2) 討論の内容

#### ① 『主権者として学ぶ意欲を高める学習活動のあり方』について

現在の子どもの実態として、意欲はあるが、発表が苦手だったり、自分の考えを再構築することに不慣れだったりする現状を克服していけるような授業デザインの必要性について話し合いが行われた。学習課題を段階的に設定し、明確化することで子どもに自信を付けさせるように配慮した授業の必要性が確認された。また、学校教育だからこそできる主権者教育の必要性について議論された。

#### ② 『社会参画の意欲を高める学習活動のあり方』について

その時代・地域・社会制度であったら、自分たちはどのように社会とかかわっていくべきかについて話し合いが行われた。社会参画と言っても、子どもには他人事であることが多い。そのため、いかに見通しをもたせ、切実さを感じる授業デザインが重要であることが確認された。その中で、切実さを感じさせるには、子どもにとって身近な素材を教材化することが重要であることを議論された。

#### ③ 『地域素材から社会に対する見方・考え方をどう育てるか』について

討論では、地域素材を教材化するために意識することや留意点について話し合いが行われた。地域素材から現状をどのように子どもに認識するのか、そしていかに自分事として将来を考えられる子どもを育てるかについて話し合いが行われた。また、ゲストティーチャーを活用して、大人のさまざまな考え方を知る機会を設ける多面的・多角的な授業についての有用性についても議論された。

#### ④ 『対話的な学習を通して社会に対する見方・考え方をどうそだてるか』について

討論では、多様な社会的立場を理解した上で、課題をどのように見るのか、どのように課題に向き合っていくのかについて話し合いが行われた。対話的な学習活動を行うため、課題設定に対して、子孝スールを使用したり、各自治体が採用しているアプリを用いたりするなど、デジタルとアナログを目的に応じて使い分ける効果についても議論された。

### (3) 今後に残された課題

- 社会の変化に対して、自分の考えをもった上で社会参画を行える人を育てていく授業デザインを意識してつくっていく必要がある。
- 社会科は、役に立つと実感されづらい。しかし、実技だという観点で授業デザインを意識する必要がある。子どもが疑問をもち、調べ、話し合うという活動が主となる。
- DEI(Diversity, 多様性 Equity公平性 & Inclusion包括性)という、新しい時代を見すえながら社会科をつくっていく必要がある。

## II 本年度の研究内容

### □ 社会科教育

#### 教育課程編成にあたっての基本的な考え

##### ○「基礎・基本」

必要な語句や表現、技能などは、「どの子にも必要な学力」である。社会科では、資料を読み取り、それらを根拠にして自分の考えをつくり、それらを表現する学習活動を行うことである。

##### ○「生きてはたらく力」

学んだことを日常生活にいかす「活用する学力」である。社会科では、話し合いを通してさまざまな意見にふれ、自他の意見を尊重しながら合意形成をはかる学習活動を通して、自他の意見を尊重する態度を養うことである。

【小学校第3学年における実践例】

### 地域社会への理解を深め、地域に対する誇りと愛情をもった子どもの育成

#### 1 主題設定の理由

私は、子どもに大須の魅力を理解し、自分たちの住む地域に誇りと愛情をもってほしい。さらに、その学習に対して自分の考えをもち、深めることのできる授業を行っていきたい。

しかし、本学級の子どもは、「家の周りが工事でうるさい」「お店ができるとまた人が増えるよね」と、大須商店街について消極的な考えをもっている子どもや「大須はいいところだよ！商店街があるから」と、商店街の印象が強く、その他の良いところを伝えることができない子どもがいる。魅力あふれる大須の街は、子どもにとって、その存在が当たり前すぎて、魅力が十分に伝わっていないのではないかと考える。

そこで、地域の実態を生かして、子どもが興味・関心をもって楽しく学習に取り組むことができるように地域に密着し、調査活動や表現活動を行うことが大切であると考えた。これらの活動に重点をおくことで、子どもは自分たちの住む地域に誇りと愛情をもつと考え、実践を行った。

#### めざす子どもの姿

#### 地域社会への理解を深め、地域に対する誇りと愛情をもった子ども

#### 2 研究の手だて

- (1) 対象 3年1組 19人
- (2) 研究の手だて

##### 手だて1 地域に密着した特色ある教材の活用

「知りたい！」という思いを引き出し、地域社会への理解を深めるための工夫として、大須地域を教材として取り上げる。これにより、「大須のことをもっと知りたい、教えたい！」と子どもたちは興味関心をもつことができると考えた。

##### 手だて2 見学・聞き取りなどの調査活動をもとにしたオリジナル地図作り

具体的な体験を伴うために、地域へ何度も足を運んで調査活動を行い、さまざまな資料や歴史的建造物と出会う場を設ける。そして、調査活動をもとにオリジナル地図を作り、子どもの気付きやわかったことを整理することで、学区に対する理解を深めることができると考える。

##### 手だて3 考えたことを表現する活動の充実

自ら得た大須学区の魅力について自信をもって伝えたり、これからの地域の姿を考えて表現したりする活動を行うことによって、学びを生かすことができる喜びや学ぶことの楽しさを実感できると考える。

### 3 実践計画

(1) 実践単元 魅力あふれるまち 大須 (14 時間完了)

(2) 単元の目標

自分たちの住む学区にはさまざまな場所があり、特色やよさを考えることができるようにする。また、場所ごとの様子を比べて違いを考え、表現することができる。

(3) 指導計画

手立て① 地域に密着した特色ある教材の活用		
単元名 「魅力あふれるまち 大須」 (14 時間完了) 実践のねらい 自分たちの住む学区には様々な場所があり、特色やよさを考えることができる。また、場所ごとの様子を比べて違いを考え、表現することができる。		
時数	学習内容	手立ての具体化
1 2	1 大須ってどんなまち？ ・学習問題づくり ・学区探検の計画づくり 学習問題：大須小学校のまわりは、どんな様子なんだろう？	○ 地域素材の教材化 ・学区の特色ある土地の利用に着目 (大須商店街・大須観音・門前町) ○ 古くから残る建造物に着目する
3 4 5	2 学区探検に出かけよう ・学区探検 ・インタビュー活動	○ 地域に学習活動の場を設ける ○ 気付かずにいたものを発見する
6 7 8 9	3 大須のひみつを伝えよう ・地図記号の使い方 ・大須わくわくMapづくり	○ 体で表現する地図記号 ○ クイズ・カルタの活用 ○ タブレットによるGoogleマップの活用 ○ ロイロノートによる共有 ○ オリジナル地図記号をつくる
10 11 12 13 14	4 未来の大須学区を考えよう ・未来の大須学区のジオラマ制作	○ 保護者にアンケート ・学区の課題の聞き取り ○ 未来の大須学区についての話し合い ○ ジオラマによる願いの具現化
		手立て② 見学・聞き取りなどの調査活動を伴う学習の充実
		手立て③ 考えたことを表現する活動の充実

### 4 実践の様子

#### 手だて 1 地域に密着した特色ある教材の活用

学級には、大須商店街で出店している家庭も多い。しかし、大須学区の魅力は商店街のみだと思っている子どもや、観光客が多くて商店街に対して良い印象をもっていない子どもも少なからずいる。一方、大須学区には商店街以外に、さまざまな神社や寺院、古墳など歴史あるものも数多くある。そこで、大須学区にあるさまざまな店や寺院などを取り上げ、子どもの「知りたい！」を引き出すことにした。3年生にとって初めての社会科の学習で、自分たちの住んでいる街のことを勉強できると知ると、子どもたちも意欲的に学習に取り組んでいた。また、本校は創立 150 周年記念行事も行われた。記念行事や総合的な学習の時間、国語の時間を活用しながら、教科横断的な授業を行った。

#### 手だて 2 見学・聞き取りなどの調査活動をもとにしたオリジナル地図作り

「学区には何があるの？」と子どもたちに問うと、「商店街とか、大須観音！」と子どもたちは 元気よく答えた。しかし、商店街や大須観音の他に、学区には何があるか子どもたちはあまりわかっていない様子だった。そこで学区探検に行き【資料 1】、白地図に神社や寺院、古

墳などを記入した。学区にあるものを一生懸命調べ、今まで気付かずに見過ごしていたものを発見することができた。

子どもたちは、さまざまなものを発見し、満足した様子だったが、「せっかく書いたけど、地図の中に字がいっぱいで読みづらい…」「(鉛筆で) 真っ黒だから、読む気がなくなる」と、自分たちが記入した絵地図が言葉やイラストで見づらくなってしまったことを残念がっていた。そのため、地図記号について学び、わかりやすく地図に表した。神社や寺院などを地図記号で表すことができ、子どもたちの地図はすっきりして見やすくなった。しかし、学区には商店街があるため、地図記号ですべてを表すには限界があった。「結局、字が多くなっちゃうね」「お店が細かすぎる！まとめて書くことはできないのかな？」と、子どもたちも地図を何とかしようと考えた。その中で、「大須学区は駐車場が多い！」と気付いた子どもがいた。「大須には観光客が多いから、駐車場も多いのかな」という疑問や、「駐車場を地図記号にしたらもっとすっきりした地図になりそう！」という意欲的な発言があった。そこで、「使う頻度の高いもの」

「大須を表す重要なもの」という点をおさえて、「3年1組オリジナル地図記号」を考えた【資料2】。大須ういろう店やガソリンスタンドなどさま



【資料1 学区探検の様子】



【資料2 オリジナル地図記号】

ざまな地図記号が出された。また、商店街にはお店がたくさんあるため、店名ではなく、大きく一括りにして「外国のお店」とするなど、工夫して考えていた。文字で表すのではなく、色を使うことで、より見やすいものになった。休み時間や、家でも熱心に考える様子がみられ、子どもたちは、オリジナル地図記号を盛り込んだ「大須わくわくMap」を完成することができた【資料3】。

学区の調査をしたり、「大須わくわくMap」を作ったりしたことで、普段何気なく見ている建物が歴史あるものだということや、商店街がさまざまな取り組みをしていることに気付くことができた。また、学区探検に出掛けた際に、商店街の方から直接お話を聞くことができたため、商店街のごみ問題など、大須学区が抱える課題も見えてきた。

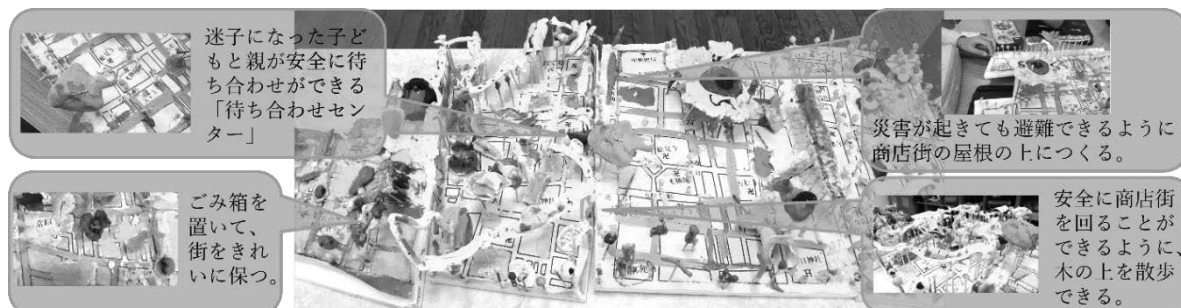


【資料3 大須わくわくMap】

### 手だて3 考えたことを表現する活動の充実

これからの大須学区について考えるため、保護者にアンケートを取り、普段暮らしているからこそ感じる学区の課題を聞き取った。保護者の中には商店街の中で働いている方の他に、本校出身の方、昔からこの学区の近くに住んでいる方がたくさんいるため、詳しい話を聞くことができた。保護者のアンケートでは、「公園が少ないので、自然も少ない」「ゴミを捨てる場所がなくて、商店街はポイ捨てが多い」「人と自転車が接触しそうで危ない」など、普段暮らしているからこそ感じる学区の課題が出てきた。課題を知ったことで、「未来の大須学区はこうなってほしい！」という思いが、子どもたちの中で芽生え始めた。「3年1組オリジナル地図記号」や「大須わくわくMap」など、自分たちで考え、活動してきたことを生かし、今度は未来の大須学区をジオラマで表現することになった【資料4】。

1～4丁目ごとのチームにわかれ、チームのおすすめ施設や設備を立体模型で作成し、周年行事で披露することになった。「商店街の中は道が細いから、2階にしてゆっくり散歩できるようにしよう」「お祭りのときは多くの人ができるように駐車場をもっと広く作ろう」「ゴミがあるのはよくないから、たくさんごみ箱を作ろうよ!」「いいね!じゃあ私はもう少し木があるといいと思うから、木を作るね!」と、アイデアを出しながら、未来の大須学区を表現した。ジオラマによる表現活動を通して、地域の未来を考えることができた。さらに、「この理想の未来を実現できるように、私たちが大須学区を守っていかないと」と発言する子どももおり、自分の住む地域への誇りや愛着を高めた様子がみられた。



【資料4 未来の大須学区】

## 5 成果と課題

### 手だて1 地域に密着した特色ある教材の活用

- 身近な地域の特色ある教材を活用し、子どもの「知りたい!」という思いを引き出したことで、大須学区にいつてもっと知りたいという意欲を高め、学習に取り組むことができた。
- 3年生の子どもに古墳や寺社は難しかったため、探検中に解説できるようにしたり、探検後に調べる時間を取ったりするなどの工夫をするとよかった。

### 手だて2 見学・聞き取りなどの調査活動をもとにしたオリジナル地図作り

- 学区探検やアンケート調査を通して、今までよりもさらに学区のことを身近に感じることにつながり、学区の現在の様子を具体的にとらえ、地域の特色を考えることができた。
- 3年生の子どもにとってタブレットで調べる活動は難しく、うまく調べられない子どももいた。個別の配慮をしたり、あらかじめ調べるとよいページを紹介しておいたりするなど、工夫する必要がある。

### 手だて3 考えたことを表現する活動の充実

- 学区の課題を知り、未来の大須学区について考えることで、地域への理解がより深まるとともに、誇りや愛情を高めることにつながった。
- 地域の人とかかわって、地域に対する思いや願いを聞く活動が十分とは言えなかったため、より多く子どもと地域の人々をつなぐ活動を取り入れていく必要がある。

## 6 今後に向けて

子どもが大須の魅力を理解し、自分たちの住む地域に誇りと愛情をもつために、地域に密着した特色ある教材の活用や調査活動をもとにしたオリジナル地図作り、表現活動は大変有効であるとわかった。今後はさらに、子どもが自ら進んで地域の人に寄り添い、魅力を実感するために、調査活動や地域の人材へのインタビュー活動を充実させたい。そうすることで、「自分だったらこんな取り組みをしてみたい」という思いをもち、追究していきたいという意欲を引き出せると考える。また、仲間と協働して学習することで、大好きな大須学区の魅力を掘り下げ、学区のことを身近に感じることもできた。今後もさまざまな調査活動、表現活動を通して、地域に密着しながら、地域に対する思いや願いを考えることができる実践を考えたい。そして、自分たちの住む地域に誇りと愛情をもつことができる子どもの姿が多くみられるような実践をしていきたい。

【中学校第1学年における実践例】

## 社会の変化に対応し、よりよい社会を創造する力を育てる社会科学習

～中学1年社会科「世界の諸地域—世界の貧富の差が生まれる理由—」の実践を通して～

### 1 主題設定の理由

変化の激しい社会を生きる子どもには、課題解決のために必要な情報を判断して活用する力やそれらの情報をもとに自分の考えを深化させる力、よりよい社会のあり方について価値判断する力が必要だと考えた。本校の子どもたちは、タブレット端末を生かして情報を収集することができる。その一方で、その情報を整理分析し、意見形成に活かすことがあまりできていない。そこで、研究題目を『社会の変化に対応し、よりよい社会を創造する力を育てる社会科学習』とし、多くの資料の中から必要な情報を読み取り、対話を重ねることで自分の考えを深め、課題に対する自分の結論を出す実践に取り組むことにした。

また、GIGA スクール構想による1人1台端末や高速通信ネットワークの整備など、子どもを取り巻く教育環境は大きく変化している。そのような今だからこそ、子どもが社会的事象と向き合う社会科授業のあり方について改めて研究をすすめていく必要があると感じるようになった。そこで、現在の状況に合わせた学習環境で、子どもが社会認識を深めていけるような実践に取り組むことにした。

### 2 本研究でめざす子ども像

社会の課題について、対話を通して自分の考えを深め、よりよい社会のあり方について価値判断できる子ども

### 3 めざす子ども像に迫るために必要な能力

- 必要な情報を手に入れ、活用する力  
(情報活用力)
- 情報や他者の考えにふれ、自分の考えを深化させる力  
(自己教育力)
- よりよい社会のあり方について判断する力  
(価値判断力)

### 4 能力を育むための手だて

#### (1) 切実感のある課題の設定

切実感があり答えを一つに絞れないような課題を設定する。それにより、資料から安易に答えを探そうとするのではなく、自分なりの答えを導くことができるようになる。

#### (2) 1人1台端末の活用

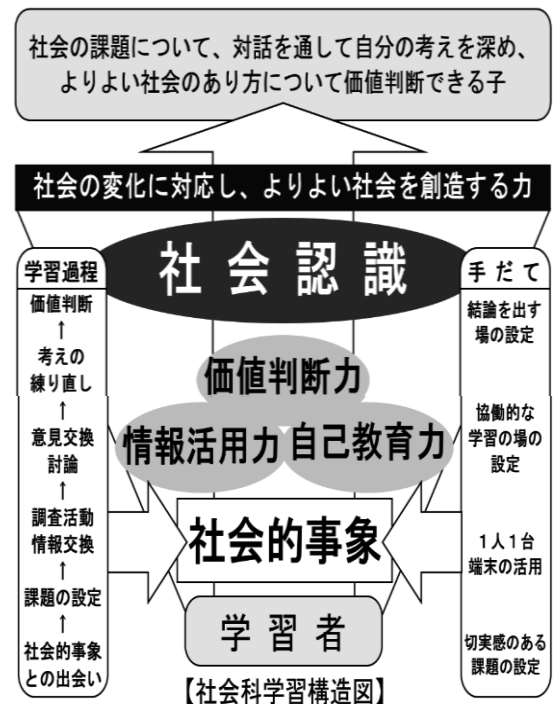
タブレット端末を活用し、必要な情報を見つけ出したり自分なりに整理・分析したりする活動を繰り返すことで、情報活用力が育まれると考える。

#### (3) 協働的な学習の場の設定

意見交換や話し合いの活動を通して、他者の考えにふれ、自分の考えとの共通点や相違点に気付くようにする。他者の考えを尊重し、課題解決のために社会の一員として自分にできることを他者とともに考えていく活動を取り入れることで、自己教育力が育まれると考える。

#### (4) 課題に対する結論を出す場の設定

対話を繰り返した後、それまでの学習を振り返る時間を設けた上で、自分なりの結論を出す場を設定する。独りよがりではなく、よりよい社会のあり方に目をむけ、根拠にもとづいて多くの人が共感できる結論を考えることで、価値判断力が育まれると考える。





## 5 単元構想

時	子どもの学習活動
1	<p><b>北アメリカ州とアフリカ州を比べよう</b></p> <p>○北アメリカ州とアフリカ州の違いを写真や表で比べる。</p> <p>○2つの州の経済的な違いから、学習課題①を設定する。</p> <p>学習課題① なぜ北アメリカ州は経済的に豊かであり、アフリカの国々は貧しいのか。</p>
2	<p><b>アメリカ合衆国が豊かな国となった理由を調べよう</b></p> <p>○アメリカ合衆国を例にして、経済的に豊かである理由を調べる。</p> <p>○考えた理由の中で、最も影響が大きいと考える要因を選ぶ。</p>
4	<p><b>アフリカの国々が貧しい国となった理由を調べよう</b></p> <p>○アフリカの国々が、経済的に貧しいとされている理由を調べる。</p> <p>○考えた理由の中で、最も影響が大きいと考える要因を選ぶ。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、学習課題②を設定する。</p> <p>学習課題② 私たちが考えた理由は妥当か。</p>
6	<p><b>仮説を他の州の国にあてはめて検証しよう</b></p> <p>○経済的に豊か・貧しくなった理由を他の国にあてはめて検証する。</p> <p>○検証した結果を他の班と交流する。</p> <p>○単元の振り返りを書く。</p>

## 6 研究の実際

### 第1時 北アメリカ州とアフリカ州を比べよう

まずは子どもたちに「GAFAM、時価総額で日本株超え」という新聞の記事を提示した。すると「GAFAMとはなにか」という声が上がったので調べることにした。すると、自分たちが普段から利用しているアメリカの会社の総称だとわかった。GAFAMが何のことがわかると、徐々にこの記事の意味を理解し始め、アメリカの会社の大きさに驚いていた。そこでそのような会



【資料1 2つの州の比較】

社がある北アメリカ州と、比較的貧しいとされているアフリカ州を学習していくことを伝え、学習課題を設定するために、まずは2つの州について情報を収集した。子どもは写真や表を使いながらデジタルホワイトボード【資料1】上で比較していた。子どもたちは教科書にある情報を中心に整理していたが、「モノカルチャー経済とは何か」「移民が多いことはアメリカの経済にどんな影響があるのか」とたずねると何のことはまだわからない様子であった。またアフリカ州と北アメリカ州ではGDPがおおよそ10倍の差があることに驚く子どもが多くいたので、学習課題①を「なぜ北アメリカ州は経済的に豊かであり、アフリカの国々は貧しいのか」と設定した。

## 第2・3時 アメリカ合衆国が豊かな国となった理由を調べよう

学習課題①を解決するためにアメリカ合衆国を例にして、情報を収集し、整理していくことにした。教科書や資料集を読んだり、動画を見たり、インターネットで情報を集めたりする子どもがみられた。「結局のところアメリカ合衆国が経済的に豊かである理由は何か」と問うと、「移民を多く受け入れているから」「シリコンバレーなどでの ICT 産業が発達しているから」「暖かい気候と広い土地を活用しているから」「大学が有名ならしい」などの意見が出された。そこで3時間目はグループで話し合い【資料2】、ダイヤモンドランキング【資料3】



【資料2 話し合いの様子】

を使って、どれが最も影響を与えているのか話合ってみよう」と伝えた。以下は、3時間目のあるグループの話し合いの一部である。

A: やっぱりアメリカに大きな会社がたくさんあるのは大きい！  
グーグルとかアマゾンとかもあるしね。スタバとかコストコとかもアメリカの会社らしい。

B: だけどグーグルとかの ICT 産業はアメリカの GDP にはあまり関係ないって。ほとんどが広告による収入だから。

A: それではほとんどダメだね。

C: でもこのグラフだと 55.5%は情報通信産業ってなっているよ。関係しているのではないかな？

B: ええ、わからないな。

A: 主な産業は石油とか鉄鋼とかもあった。

B: つまり全部すごいんだって。農業もすごいし。

～中略～

C: 農業も工業も移民が支えているから、移民を1番上にしよう。

B: 移民が来るってことは良い場所なんだよ。平等で、暖かくて…。

D: それなら移民よりも暖かい気候が上ではないかな？

C: どれも関係しているけど、生活しやすい気候だけでなく、移民の人が暮らしやすいことも大事でしょう。

B: だから、平等と暖かい気候は両方とも外せないね！

### 【資料3 ダイヤモンドランキングを通した話し合い】



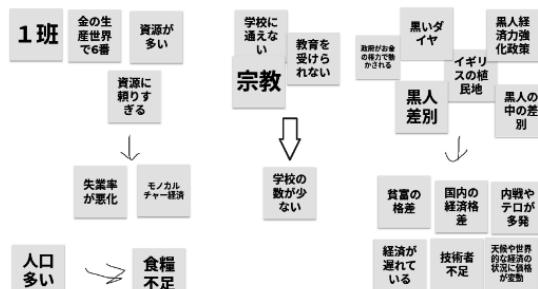
班で話し合った後、他の班と意見を交流した。その後班で意見を練り直す姿もみられた。アメリカの経済的な豊かさは地理的な要因もあるのではないかと気付く班もあった。そこで「アフリカではアメリカのような要因が無いから経済的に貧しいのだろうか」と問うと「気候などは良くないなどはだいたい当てはまる」「そんなに単純ではない」などと意見がわかれていた。そこで次時ではアフリカの国々が経済的に貧しい理由を調べていくことにした。

## 第4・5時 アフリカの国々が貧しい国となった理由を調べよう

アフリカでは経済的に貧しい国がなぜ多いのか調べ、情報をデジタルホワイトボード【資料4】に整理した。矢印などを使いながら、アフリカが経済的に貧しい理由を分析していた。子どもが考えた一部の意見は以下のものであった。

## 子どもたちが考えたアフリカの国々が経済的に貧しい理由

- ・アメリカのように暖かく、人間が住みやすいとは言えないアフリカの気候は理由の一つだ。
- ・昔ヨーロッパの植民地であったことが今でも影響を与えている。
- ・宗教によって女性が教育を受けることを認めていないこともあるらしい。賢い人を増やせないで、いろいろな技術が伸びないので、いろいろな技術が伸びない。
- ・紛争などでお金を稼げない状態になっている。
- ・モノカルチャー経済をやめないと経済的に貧しいままだと思う。でもそれができないことにも理由があると思った。気候とか教育とか。



【資料4 子どもが整理したアフリカの情報】

第5時では、北アメリカ州の学習と同様に、ダイヤモンドランキングを使用し最も影響が大きい要因を考えた。多くの班で「極端な気候」「内戦・紛争」「植民地」などを上位にあげていた。地理的な要因だけでなく歴史的な要因もあることに気が付くことができていた。

これまでの学習を振り返り、学習課題①で考えてきた理由はあくまで仮説であり、妥当であるかを検証する必要があることを説明した。そして、学習課題②として「私たちが考えた理由は妥当か」を提示した。

## 第6・7時 仮説を他の州の国にあてはめて検証しよう

学習課題②を解決するために、世界の国々の一人あたりのGDPを調べた。次に、上位である国と下位の国を一つずつ抽出した。そして、第2～5時で考えたアメリカやアフリカの経済的な豊かさ・貧しさの理由としてあげたものが、その抽出した国にもあてはまるのかを調べた。理由としておおよそ当てはまる国や、複数の理由が重なっていることに気が付くグループが多かった。以下はあるグループの検証結果をまとめたスライドの一部【資料6】である。その後結果を報告し合い【資料5】、単元の振り返りを書いた。



【資料5 結果を報告し合う様子】

### 検証例 スイスを調べました

教育水準が高い。時計産業が盛ん。  
 ロールプレイ授業でディスカッション力を高める  
 高等教育機関の教育水準ランキングで2位、QS世界大学ランキングで一位。  
 95%の子供が幼稚園に通う  
 一部の州で義務教育が18歳になった  
 小学校の成績が大学に影響する。  
 スイスに住む外国人は人口の約4分の1と割合が高い

### 結果・考察

私たちは、「スイス」が豊かな国となった理由として正しいのか検証しました。教育について調べたところ、スイスは教育水準が高く、時計などの難しいものも盛んだということがわかりました。

そのため、「スイス」が豊かな国となった理由として正しいと思います。

「移民」の多さも豊かな国である理由の一つだと分かりました。

### 検証例 イエメンを調べました

55.5万平方キロメートル（日本の約1.5倍）  
 激しい武力戦争が2015年から7年  
 約2,500校が空爆などで破壊された  
 宗教はイスラム教が多い  
 女性の教育、就労が置き去りにされた。  
 10分に1人の子供が予防可能な病気で亡くなる  
 セーブ・ザ・チルドレンのHPより

### 結果・考察

私たちは、「紛争」が貧しい国となった理由として正しいのか検証しました。イエメンを調べたところ、内戦が多いことがわかりました。

そのため、「紛争」が貧しい国となった理由として正しいと思います。

「医療が発達していない」も貧しい国である理由の一つだと分かりました。

【資料6 検証結果をまとめたスライド】

## 単元の振り返り

- ・北アメリカ州の国には経済的に豊かである理由があり、アフリカ州の国では経済的に貧しい理由があった。もちろんすべての国にあてはまるわけではないけど、学んだこ

とも大きな理由の一つだと思った。

- ・その国がある自然環境や歴史によって経済的な豊かさに違いが生まれたのだとわかった。私は暖かくて、過ごしやすい温帯の地域には経済的に豊かな国があると思う。他の国でも検証してみたい。
- ・アメリカは有名な大学があり最先端の研究が行われていて、アフリカでは学校に行けない人がいた。つまり、教育があるかないかが影響していると思った。アフリカでももっと学校が増えて、通える人が増えるといいなと思った。
- ・少子高齢化の日本も移民をどんどん受け入れていくと良いと思う。もちろん事件なども増えるかもしれないが、アメリカのように移民を受け入れて、豊かになると良いと思う。
- ・比べたり、関連付けたりすることでいろいろなことがわかった。これからの勉強でも役立つと思うので、忘れないようにしたい。
- ・世界にお金持ちの国とそうではない国があるのはなぜだろうと思っていただけで、この授業で理由があることがわかった。どの国もお金持ちになるといいなと思った。



【資料7 振り返りの様子】

## 7 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

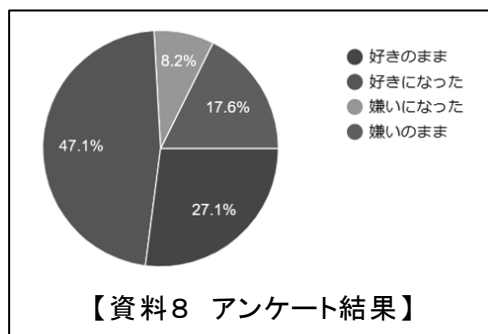
世界にある貧富の差は、子どもたちにとって関心があり、原因が複雑に絡み合っているため答えが一つに絞り切れない課題ということができただろう。そのため振り返りからは、子どもたちが自分なりに判断した多様な原因がみられた。またそれらの意見は1人1台端末を活用することで即時的に共有されるため、他者の考えや資料をいかしながら形成できていた。

また、第6・7時でそれまでの学習を振り返り、自分たちが考えた原因を他の国に当てはめて検証することで、より多くの人共感できる結論を出すことができた生徒が多かった。

さらに、同学期中に能力を育む手だてを意識しながら、実践に取り組み続けた。学期末のアンケート（同中学1年生170人が回答）では、「社会科は好きですか」というアンケートに対して、資料8のような結果となった。社会科に好意的な印象をもつ子どもが増えたことは、よりよい社会を創造する力を育むための基礎を築けたと考えることもできただろう。今後もこのような実践に取り組んでいきたい。

### (2) 今後の課題

本実践では、意見を裏付ける根拠が不十分な子どもがみられた。最もらしい意見を形成することができたのだが、数値的なデータや信憑性のある情報を根拠として引用することができなかった。今後は根拠のある意見形成を意識することで、話し合いがより良いものになると考える。またアフリカ州のとらえ方が一面的になってしまったため、情報収集をさせる時の視点を確認してから学習をすすめるべきだった。



【資料8 アンケート結果】